

外出自粛を契機とした

住民の健康意識の醸成と村内観光の磨き上げ

宇検村企画観光課主事 隈元 裕平

外出自粛によるコミュニティの軽薄化と運動不足

鹿児島県宇検村は、奄美大島の南西部に位置する村です。村内には一四の集落があり、奄美最高峰の湯湾岳と、内海である焼内湾を有する、まさに「海と山に囲まれた村」です。大正六年に焼内村から宇検村へと改称され、平成二九年には村政一〇〇周年の大きな節目を迎えました。

本村では、令和二年八月末現在、新型コロナウイルスの感染者は確認されていません。しかし、感染症対策などによる経済や生活への影響は、観光客の減少、営業自粛やイベント中止による収入減、外出自粛による地域コミュニティの軽薄化や運動する機会の減少など、少なからず現れています。

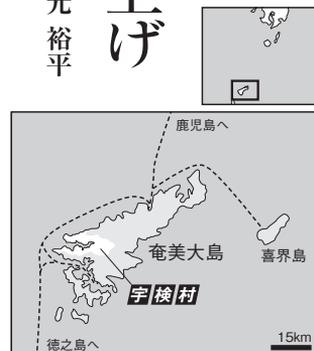
この現状を打開すべく、村でもいくつかのコロナ対策事

業を、国の地方創生臨時交付金を活用して実施しています。その中でもとりわけ特徴的な事業・施策を紹介します。

観光業や水産業などへの給付金の支給

「観光・宿泊・飲食業等緊急支援金」は、コロナの影響による諸般の自粛活動などにもなう売上の急減により経済的打撃を受けた、村内の観光・宿泊・飲食業者に対して、支援金を給付し、事業の継続を図ることを目的としています。

具体的には、村内に事業所を有している事業者の中で、令和二年三・四・五月のいずれかの月の売上が、前年同月と比べて三〇パーセント以上減少した事業者に対して、一律一〇万円を給付するものです。八月二四日現在、この事業では、村内二〇前後の業者のうち一五事業所から申請を受





峰田山公園から焼内湾を望む。

け付けています。この支援を受けた事業者の方からは、「直接的な収入になるのでありがたい」との声をいただいています。

一方、テイクアウトなどの新しいサービスを開始することで、売上の減少をカバーしている事業所が一部にみられます。なかには収入減の要件に当てはまらず、支援金を受けられない事業者もあり、今後は、こういった自助努力を行なっている方々も応援できるような支援策が必要だと考えています。

村には美しい内海の焼内湾を利用した漁業があり、村内経済にとって欠かせない存在となっています。水産業者も出荷先の市場の仕入れの減少、生鮮物を輸送する上で欠かせない物流基盤である航空便の

減便による販売機会の損失などで、経済的な打撃を受けています。そこで、「観光・宿泊・飲食業等緊急支援金」と同様の支給条件で、村内に事業所や支所などを有している水産業者・養殖業者に対して支援金を給付する「水産養殖業等緊急支援金事業」を実施しました。支援額は「一〇万円×各事業所の従業員数」とし、最大で二〇〇万円を支給し

ています。八月七日現在、四事業所のうち二事業所からの申請を受け付けています。

養殖業の損害は非常に多額であり、村からの支援金も一時しのぎ的なものであると言わざるを得ません。水産物の消費低迷が著しい昨今、滞留している水産品に関しては、国全体として取り組むべき問題だと思っています。

地域商品券で村内の消費喚起を

経済的影響は、観光・水産関連業にとどまりません。村民が利用する商店や弁当店、ガソリンスタンドなどの小売業も、住民自身の判断による外出自粛や県の自粛要請に従った店舗独自の営業自粛により、売上が減少し、地域経済の低迷につながっています。

そこで本村では「経済活性化地域商品券事業」を実施しました。本事業は、村民を対象に村内で使える地域商品券を配布、活用してもらうことで、コロナの影響により落ち込んだ消費の改善や住民生活の支援を目的としています。令和二年五月一日時点で、村に住民登録がある全住民を支給対象とし、六月二十八日より、一人につき五〇〇〇円分の商品券を総額八四〇万円ほど配布しました。

小売業の皆さんからは「自粛期間より利用者（売上）が増えた」との報告も受けており、経済活動活性化に対する効果が顕著になっています。

また本村では、毎年年末に「やけうちどんと券」という独

自のプレミアム付き商品券を販売しています（総額二四〇〇万円分を総額二〇〇万円で販売）が、今年には「経済活性化地域商品券」の配布時期にあわせて販売することで、さらなる地域経済の活性化を図っています。コロナの影響が続く中、さらなる消費喚起につながることを期待しています。

健康意識の向上を図る「ヘルシーチャレンジ事業」

宇検村は、特定健診受診者におけるメタボ予備軍・該当者の割合が県内の市町村のなかでも高い自治体です。また、脳卒中による死亡比率や早世（六五歳未満の死亡者）の割合も全国平均と比べて高く、生活習慣病対策が最重要課題となっています。村の五カ年（平成二九〜令和三年度）の健康増進



保健福祉課の指導で体操を行なった。

計画「いきいき健康うけん21」でも、「脳卒中の発症・重症化予防。脳卒中を予防して、いきいきと自分らしい生活を送ろう!」を重要目標として、各種事業を展開しているところ。このほか若年層の生活習慣病罹患者も多く、若い世代に向けた対策にも取り組んでいかなければなりません。しかし、今年度は、コロナの影響により各種保健事業、

村内バレーボール大会や村民体育大会などのスポーツ大会が相次いで中止となっており、運動不足による生活習慣病の発症・重症化のリスクがますます高まっている状況です。そこで、地方創生臨時交付金を活用し、村民の健康づくりに対する努力や成果へインセンティブ（ご褒美）を付与する「ヘルシーチャレンジ事業」を企画しました。その名も「コロナに負けるな!! 太っ腹企画!! ヘルシーチャレンジ」サバクれ自分のカラダ!!」です。

この事業では、①成果型の「脂肪買取コース」と、②努力型の「ヘルシー記録コース」の二つのコースを設けています。①は、挑戦期間中の運動や食事改善による成果に応じて商品券を進呈するものであり、一キロの減量につき一〇〇〇円分の商品券が最大三キロ・三〇〇〇円分まで支給されます。②は、期間内に行なった運動・食事・体重の記録を、村が準備した記録用紙に継続的に記入することで二〇〇〇円分の商品券を進呈する形式になっています。

健康教室や各種スポーツ大会などの開催が相次いで見送られる状況ですが、ゲーム感覚で楽しみながら中高年層のメタボ解消や若い世代の健康意識の向上につなげていきたいと考えています。



ヘルシーチャレンジのポスター。

住民による地元の魅力の再発見

コロナのピンチを打開する事業がある一方、「宇検村で宿泊体験観光魅力再発見助成事業」は、この逆境をチャンスに変えようとするものです。本事業は、感染防止のため観光客の受け入れが難しい現状に鑑み、村民による村内観光を促進することで、停滞している消費活動を促し、観光事業者を支援していくことを目的としています。あわせて、住民の観光意識の向上と、体験メニューなどの関連サービスのブラッシュアップなどにもつなげていければと考えています。

枠組みは、村民が事前に登録した観光プログラムを利用した場合、その利用料を村が全額助成するというものです。事業者の登録条件は、村内で宿泊・飲食・体験観光の事業を行なう者。利用者の条件は、本村に住所を置き、かつ村内で生活している者、そしてプログラム利用後にアンケートを提出することとなっています。

全額助成としたのは、利用機会が極端に少ない地元住民による村内観光を促し、当たり前すぎて忘れがちな地元の魅力を再発見する機会を提供し、観光意識の向上につなげたいからです。また、村民目線のアンケートを評価・分析し、既存サービスの品質向上につなげたいという思いもあります。プログラムの登録は、新たな観光メニューの開発や新規参入を検討している方を後押しできるよう、既存の

事業者に対して積極的な協力をお願いしました。実施したプログラムの一例として、集落をガイドとともに散策し、集落の魅力などを探し、終了後に付近の旅館で昼食をとりながら情報交換会を行なったものなどがあげられます。

住民が親しみを持ちやすいように、事業の呼称を村のマスケットキャラクター「うーけん」の名前を入れた「うーけん発見！再発見！」として、村から告知したところ、予想以上の反響がありました。当初は事業期間を令和三年二月までとしていましたが、令和二年七月一日の開始以降一カ月あまりで予算の上限に達し、惜しまれつつも事業終了となりました。第二弾の実施を求める声も多いため、事業内容を再考し、実施を検討していこうと考えています。

感染者が確認されていなくとも、経済的な打撃を受けている宇検村。コロナ禍はいまだ収束の見通しが立たず、これからは「ウイズ・コロナ」を考えていく必要があります。一時的な対策ではなく、村の未来を見据えたコロナ対策を講じていけたならと思います。



事業に親しみを持ってもらうためマスケットキャラクターの「うーけん」を活用した。

隈元裕平 (くまもと ゆうへい)
 平成元年鹿児島市生まれ。宇検村立田小学校教諭を経て、平成28年に宇検村総務企画課に入庁。奄美令市場事務所勤務を経て、令和2年より現職で、地方生・景観・広報を担当。